



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

みえの学力向上県民運動「フォローアップイベント」を開催！

～12月19日（金） 三重県総合文化センター～

「明日の三重の学力向上のために」をテーマに、教育関係者やPTA関係者など約740名が参加しました。

鈴木知事からは「三重県の子どもたちが能力が低いことは絶対ない。能力を引き出す大人の努力が足りなかったり、やり方に課題がある。今一度本気になって努力を重ね、ともにもっと汗をかこう」と呼びかけがありました。

基調提案では、本県の子どもたちの学力等の現状説明のあと、長年の努力や計画的な学校訪問等を通じて全国学調で著しい成果が見られた沖縄県から取組の紹介がありました。特に、沖縄県教育庁の宮國学力向上推進室長は、「無解答率の改善」や「当たり前のことの徹底」などを強調され、会場では熱心にメモを取る姿が見られました。パネルディスカッションでは、「校長が毎日、授業観察を行うなど、校長が変われば学校が変わる」「教科書の内容そのままではなく、活用力を確認するテストの実施が重要」などの意見が出されました。第2部では、明日からの取組に生かすために、学校での授業改善（めあて、振り返り）や学習規律の徹底、コミュニティ・スクールなどの地域と連携した取組、生活習慣・読書習慣チェックシートの取組、学校図書館司書の活用などをテーマに先進事例等の報告、情報交換を行いました。



「単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業公開」を通じた研修会を行います！

- 平成27年1月27日（火） 13:00～16:30 鈴鹿市立白子小学校
- 平成27年2月2日（月） 13:45～16:30 大台町立三瀬谷小学校

読書 DE 向上！

— 読書習慣の確立 —

読書は、知的活動（論理・思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤をなす言語に関する能力を育みます。

平成26年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、「読書時間が長い」や「学校や地域の図書館に行く頻度が多い」と回答している児童生徒は、すべての教科で平均正答率が高い傾向にあります。

では、その「読書習慣」を身につけるためには、どのような取組が効果的なのでしょうか。以下にその一部をご紹介します。



— 「読書を通じた学び」を進めるための取組 —

- 学校図書館等を活用した授業づくりの計画的な推進
- 各学校の図書委員会を中心とした「図書館まつり」等の活動の定期的な開催
- 家庭と連携した「ファミリー読書」の推進

学校全体で子どもの読書習慣を形成する機会の拡充に努めましょう！

子どもたちの確かな学力の定着に向け、家庭と連携して読書に親しむ取組を継続していきましょう！

Vol.3 次年度は、3年ぶりに「理科」も実施

文部科学省より、平成27年度全国学力・学習状況調査の実施要領が発表されました。教科に関する調査では、国語、算数・数学に加え、理科が実施されます。

理科は平成24年度と同様、A問題、B問題の区別がなく、「知識」や「活用」の力を一体的に問う問題となります。

みえの子どもたちの「理科」の課題とは？！

平成24年度全国学力・学習状況調査【理科】の調査結果より

小学校

- 観察・実験の結果を
整理し考察すること
- 科学的な言葉や概念を使用して
考えたり説明したりすること

課題!!

中学校

- 日常生活などの場面において、
理科に関する知識や技能を活用すること
- 基礎的・基本的な知識を活用して、根拠を基に、
他者の計画や考察を検討し改善すること

課題!!

どのような改善を行う？！

問題などを活用！

- 「ワークシート」
- みえスタディ・チェックの問題
- 平成24年度の全国学力・学習状況調査の理科の調査問題

資料などを活用！

- 平成24年度の全国学力・学習状況調査の解説資料や報告書
- 授業アイデア例（文科省ホームページ）
- 県が提供している「授業改善支援プラン2012」

過去の全国学力・学習状況調査問題を掲載しています

県教育委員会では、平成19年度からの国語、算数・数学のB問題及び理科の調査問題を授業や家庭学習で利用できる「ワークシート」として、小中学校教育課のホームページに掲載しています。

一人ひとりのつまずきに対応した継続的な指導改善に生かしてください。

【小中学校教育課ホームページ】 URL：<http://www.mie-c.ed.jp/shochu/>

「みえスタディ・チェック」を掲載しているホームページです。「先生のページ」よりお進みください。（パスワードが必要です。）

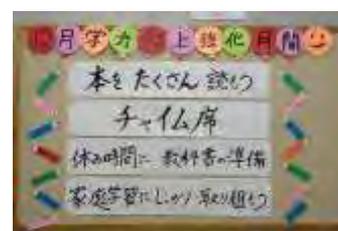
わかる授業は「板書」がバロメーター！

学力向上の鍵は校長のマネジメント！

■ 全教員共通実践事項の徹底

- 教員は指導書等に頼らず、まず自らの授業を組み立てる
(児童の課題に沿った発問や板書の工夫など、教材研究の重視)
- ノートの使い方を統一 (算数は1時間で見開き2ページ)
- 算数宿題プリントの統一 (朝に解答、わからない児童にはその日のうちに指導)
- 「漢字を意識して書かせる指導」の徹底と「漢字読み前倒し指導」の導入
- 全教員による全国学力・学習状況調査の分析、授業改善 (PDCA サイクルの確立)
 - ・ 全国学力・学習状況調査の自校採点実施 (調査実施 (4月22日) 直後、全教員で採点)
 - ・ 課題の洗い出し、方策の共有、5月初旬より授業改善に着手
- 県が配信している「学力向上 Web システム」の有効活用
 - ・ 「単元ごとの児童の学習状況を把握するための Web テスト」の活用
 - ・ リアルタイムでの学習状況の把握と早い段階での課題克服策の設定
【調査】 全国学力・学習状況調査, 沖縄県学力向上到達度調査, Web テスト
【方法】 上記調査の自校採点結果の入力→リアルタイムに現状把握→課題克服策に活用
- 学習に向かう校風づくり
 - ・ 学力向上強化月間 (12月~3月) の設定
 - ・ 行事の内容・時期の見直し

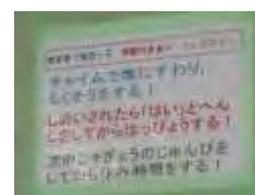
＜学力向上 Web システム＞
沖縄県教育庁が作成した Web 問題の配信及び結果集計を行うシステム



【12月学力向上強化月間目標】

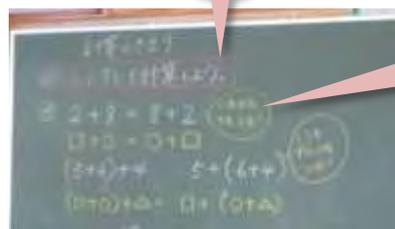
■ 全教員の授業改善

- 全教科の授業における「めあての提示」の徹底
 - ・ 各教員が「本時のゴールを意識した授業のねらい」を明確にもつ
- 授業 45 分間のめりはりの徹底 (導入→展開→まとめ)
 - ・ 算数の授業の流れを全学年で統一
- 「学習のきまり」の統一 (授業前の黙想 = 心の準備, 発表の話形, 聞く態度)
 - ・ 新年度スタート時に各学級で確認
 - ・ 家庭訪問で各家庭に説明
- 「授業改善担当教員」が全学年の課題を把握
 - ・ 各学年の課題にあった学習ワークシートの準備
- 校長が全教員の授業を, 教員一人あたり年2回以上参観, 指導助言
- 教員一人あたり年1回以上の研究授業実施



【全学年共通の学習のきまり】

めあての
提示



【めあての提示】

本時の内容を
深めるための
ポイント確認

■ 補充指導の徹底

- 全教員の協力体制のもと, 3年生以上の全学級で週2回実施

■ 家庭との連携

- 低・中・高学年用「家庭学習の手引き」を作成, 新年度スタート時に全児童に指導
- 家庭学習の反省リレーの実施
(本人の振り返り→保護者のコメント→担任のコメント→校長のコメント)

先輩

～学力向上アドバイザー～

からの メッセージ

津市の実践推進校を訪問して

津市の実践推進校では、様々な困難や課題の一つ一つに真摯に向き合いながら、「学力向上の取組」を着実に推進しています。その中でも特に学校全体として、組織的に取り組みが動き始めた事例を紹介します。

● 校長によるビジョンの明確化と組織マネジメント

『授業は学力と豊かな心を育てる人づくりとキャリア形成の場であり、日々の授業を大切にしていく』ということを確認し打ち出し、学校経営の柱に据えています。そのことが全教職員にも浸透しており、教員は授業の改善や子どもたち一人ひとりの実態に即した学習習慣づくりや人間関係づくりを進めています。

● 全国学力・学習状況調査やスタディ・チェック、ワークシートの活用

全教員が調査問題等と向き合うことにより、「今求められている学力とは何か」「その力を身につけさせるためには授業をどう改善していけばよいのか」に焦点をあてた議論が深まってきています。また、実際の授業の中にスタディ・チェックやワークシートを取り入れ、「ドリル型」から「考える」授業へと変革しようとしています。

● 活用する力を育成するための授業改革

『活用する力』を育む授業づくりを進める中で、各授業での「めあて」と「振り返り」を大切にし、子どもたちの立場から学ぶ意欲を引き出す工夫に取り組んでいます。また、子どもたちの主体的な学びを引き出すよう、目的を明確にしたペア学習・グループ学習の導入や言語活動を重視した授業など、子どもたちが「できる・わかる」を実感できる授業づくりを始めています。

アドバイザーは学校現場が直面する課題やニーズに応じ、学ぶ主役の子どもたちがより確かな学びを自覚できるように、学校と一緒に具体的な手立てや方向を見いだしていくことを喜びとして訪問させてもらっています。

【学力向上アドバイザー 松本 幸人】

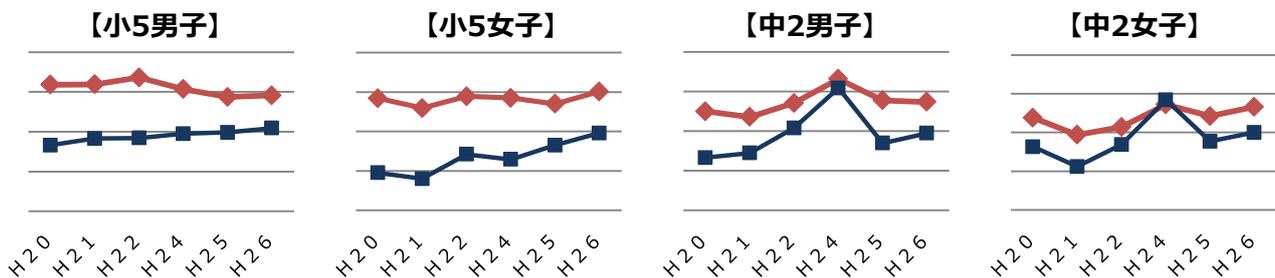
コラム

明るく元気な“みえの子どもたち”を育てるために

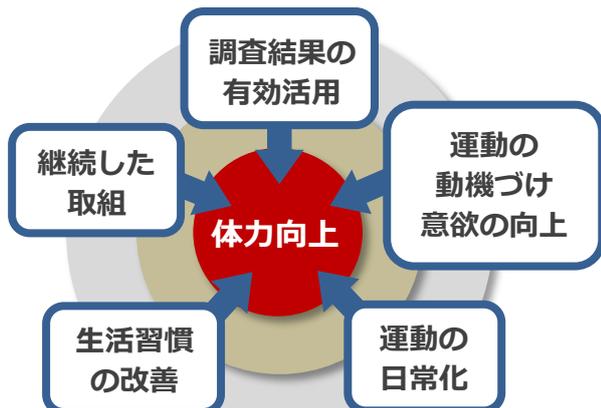
平成26年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が11月29日に公表されました。本県の結果は、小中学校ともに、依然として全国平均を下回っています。

● 体力合計点の推移 ●

◆ 全国 ■ 三重県



※H23は調査が実施されませんでした



本調査は、各学校が子どもの体力を向上させる様々な取組の成果を検証し、改善に生かすことを目的の一つとしています。

調査結果を学校全体で共有し、有効に活用しましょう。

知・徳・体の一つである「体力」は、子どもたちの「生きる力」を育みます